

峰山X.C. Ski

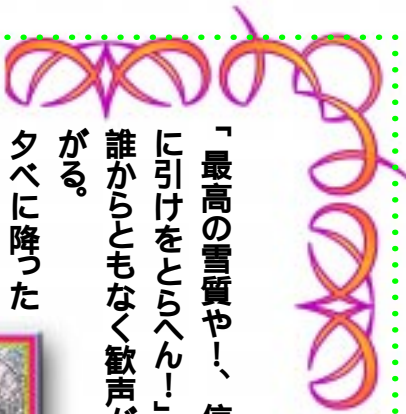


1999.02.14

天候 ⇒ 晴れ/曇り



夜鷹山ワカン



「最高の雪質や!、信州に引けをとらへん!」と誰からもなく歓声があがる。夕べに降ったパウダースノーにソンドを潜らせながら快適に板を滑らせて行く。

朝焼けで周りの枯れススキが、金色に輝いて真っ白の雪のじゅうたんにシルサトとして浮かび上がりたなびいている光景は、我々を歓迎してくれているようである。

フィルムを車に忘れたと言ってみんなで引き返しである、いつも何かとお騒がせのキャラクタである。

最高の雪質や!、信州に引けをとらへん!

5時半に私宅に集合メンバーは加藤 藤雄 51才、河本博 47才、大塚賢一 43才、木倉博 35才、田中彰 25才の5人である。キクちゃんのボンゴワゴンに全員乗り込み峰山かんぼの分岐でタイヤチェーンを付けるが、本人はジャッキUPすると言っていたが、そんなにじゃまなくさい事をしなくて



今日はもう一つ素晴らしいプレゼントがあるのです。何かというところ、来る度に登ってみたいと言っていた「夜鷹山」にワカンで入山するので私にとっては未踏の地であるので気持ちが高くなって登山口まで心地よい汗をかきつう一番にたどり着いていた。

もう一つ素晴らしいプレゼント 「夜鷹山」にワカンで入山

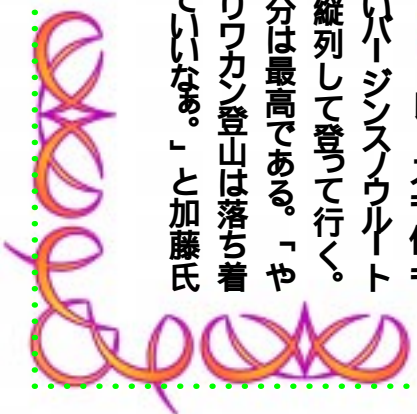
装着完了!。

「JEEPのワタチがあるものを縦列して登って行く。

朝の冷え込みで快適なスピード気分は最高である。「や

で板が走ってくれる。河本さん はりワカン登山は落ち着いていいな。」と加藤氏

現地に着くこと、7時すぎ、気温はマイナス2度である。天候も我らを歓迎するかのようにお日さんが顔を出し、見事な途中まで行くと、キクちゃんが



と顔を見合わせ。
山頂からは見渡す景色は北部の氷ノ山方面は芳ろっていたが、南部方面は晴れ間も覗いている。真下に見える関電の太田ダム湖面が周りを雪に囲まれてなんとも言いたいが静けさを保っている。

始めた。防火帯を直滑降で滑り終え再び、林道に・・・、そ

雪が降って積もる景色はいつ来ても変化があり、ホントに飽きないものである。だからこの心地よい汗をか

きなからのXC Skiはやめられないのである。

暁晴山の山頂へとXC 登り

小休止を兼ねて写真に収め、雑談していると、我々の強敵であるJEEP軍団が現れて気分が一転してしまった。

しかし、彼らが悪戦苦闘している間に我々のほうが一歩早く「やはり、大自然には排ガスをまき散らす車はマッチしないぜ」と

言いつつ歓声を上げて深雪に板を潜らせながら綿帽子をかぶった林道に姿を消してゆく。



綿帽子に消えてゆく

ここで加藤氏が先週に出会った加西のXC夫婦と再び出会う、どち

らからともなく「今日は最高ですわ」と・・・。

大自然の中の大好きな林道を滑り終え、今度は暁晴山の山頂へとXC登りである。

結構長くきついので、心地よい汗がしだいに大汗になる。山頂に着くとさすがに風も出てきて、気温もマイナス5度である。吹き出た汗がつかつかしいと思ったら、凍りつくほどである。

11時、快晴の中パーシンスノウを溶かしいつもの防火帯で昼食のラーメンタイムである。大休止も終える頃、急に空が雪雲に覆われちらつき

ないXCでの下りは何度経験しても緊張の連続である。ちよっとパランスを崩せばすぐに転倒しかねない。しかし、みんな慣れたもので、下まで誰も転倒することなく笑顔があふれている。最後にサイクリングロードを一周して、本日の素晴らしいXC&ワカンも14時に終了となりました。本

日走行距離は20kmとつたところか・・・。

今日は私にとってチョロトの変わりに素晴らしいホワイトパレンタイディになりました。

今夜は実踏が出来た夜鷹山にキャンパイだ！



「おお、滑るゾー！」と気合を入れて「コントロールの効か

